

30 灯りの中のことば みやうか^{けいすい}&京穂

現代アーティストみやうかさんと書道家京穂とのコラボレーション作品です。みやうかさんが作った和紙玉に、文字を書かせていただきました。今回は4つの和紙玉を展示することになったので、百人一首の中から「春・夏・秋・冬」の句を選びました。

和紙玉の柔らかい雰囲気や百人一首という古風なイメージを和らげてくれるかなという思いを込めて百人一首を選びました。

今度は見た人みんなが読みやすい現代風なものも書いてみたいと思いました。

和紙玉に関しては、様々な和紙を使うことで灯りを入れた時に多彩な表情が出るようにしたとのこと。また、筆に関しては墨の筆ペンだけでなくピンクや深緑などのカラーインクの筆ペンを使用し、四季を表しました。



写真1：和紙玉



写真2：春の句

和紙玉の中のLEDライトや上から吊るすための方法には少し工夫が必要でしたが、みやうかさんのおかげでバランス良く吊るすことが出来ました。

和紙玉の肌触りなども感じてほしかったのですが来場者の方は触ってはいけないと思っていたようだったので、次回からは一言書いておきたいと思いました。

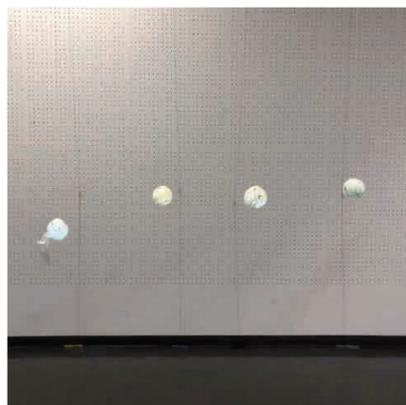


写真3：展示の様子



写真4：京穂（左）みやうかさん（右）



写真5・6：LEDライト点灯時



作品の横にノートを置き、展示期間中に来てくださった方からのメッセージを頂きました。

「昔の人の魂の容れ物のよう」

「幻想的で素敵です!」

「癒される感じがします」

「四季の色合いと、百人一首の季節感。マッチしている気がします」

「とても綺麗です!!どうやって作ったんだろーって興味深いです…!!緑色が個人的に好きです♡細かい文字が上手で素敵な作品でした」

「さわらせてくれてうれしかったです」

「むずかしいことばがかいてあってすごいです」

皆さんに興味を持ってもらえて素敵な時間となりました。和紙玉に文字を書くときは修正が利かないのでとても緊張しました。普段は普通の半紙に書くので立体の紙に書くということはとても楽しい経験となりました。(京穂)